

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年4月2日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104860
法人名	医療法人 佑志会
事業所名	グループホーム 花々館郡山
所在地	鹿児島県鹿児島市郡山町2157番地1 (電話) 099-298-2688
自己評価作成日	令和3年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・医療法人を母体としており、24時間を通して医療連携が図れ、緊急時対応の整備も図れている。
・入居者様の希望に合わせ通院リハビリ支援も行っている。
・入居者様の個別性や尊厳を意識したサービス提供に努め、入居者様の望まれる暮らしや自己実現が出来るよう、入居者本位に考えたケアの実践、入居者、その家族との関係作りを大切にしている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和3年3月19日

・当事業所は、母体が医療法人であり、24時間医療連携体制が整っており、本人や家族の安心につながっている。
・初詣やひな祭り・花見・ソーメン流し・クリスマス会等、年間の行事が利用者にとって楽しみでありメリハリのある暮らしになるよう努めている。
・防災訓練や自主訓練は計画的に行い、防災に対する意識を高めている。
・自治会に加入し地域との関わりを大切にしている。日常のあいさつや声かけ等、地域の一員として受け入れられている。野菜の差し入れもある。今回は地域の敬老会はコロナ感染防止の為、自粛しているがお祝いの品を届けてもらい交流している。
・必要に応じて産業カウンセラーによる心のケアを取り入れて、職員を大切にしている。
・職員の意見や提案により、入居者と家族の絆を継続しながら介護サービスに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎日朝の申し送り時、スタッフ全員で理念の唱和をしている。その他、玄関、パンフレット等に掲示している。	理念は玄関やフロアに掲示し、パンフレットにも掲載している。ミーティングなどで唱和し常に意識できるようにしている。毎月職員全員で唱和し、振り返り、共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、回覧板を入居者と一緒に持って行ったり、屋外散歩を行い道行く住民の方との会話等、交流を図っている。	自治会に加入し地域の情報を得ている。散歩の時に挨拶や会話をしている。敬老会は今回は行かなかったため、お祝いの品を届けてもらった。野菜の差し入れもあり日常的に交流している。コロナ感染防止の為、小学生が立ち寄りしていたがボランティアも自粛している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議を利用し、認知症についての情報を発信したり、入居相談の電話や見学に来られた方々に対し、助言を行う事もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に一度開催となっているが、コロナ禍の為活動状況や、その他報告を文章や電話にて報告し、意見を頂きサービス向上に努めている。</p>	<p>コロナ感染防止の為、法人内のメンバーや参加できる範囲で会議を行い、不参加者へは会議資料を持参し意見を聞いている。事業所活動やヒヤリハットの現状・外部評価結果報告等を行い意見を貰っている。意見はサービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>関係機関へ情報収集を行ったり、助言を頂いている。</p>	<p>市の担当者とは、窓口に出向いたり、電話で必要時に相談や報告をしている。定期的に福祉課からの訪問があり連携を密に取っている。市主催の研修会に積極的に参加して、情報を得たり、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止委員会を中心に、職員一人一人が、身体拘束が入居者の生活の自由を制限し、尊厳ある生活を阻み様々な弊害をもたらす事を理解し、拘束防止廃止に向けた意識を持ち身体拘束をしないケアを実践できる様定期的に検討、確認している。</p>	<p>指針を整備し2ヶ月毎に身体拘束廃止委員会を開催している。特に言葉遣いは事例を挙げて話し合い、馴れ合いにならないように質の向上に務めている。日中は玄関の施錠はしていない。外出希望時は、職員が同行して散歩に出かけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を中心に虐待について勉強会を行っている。日々の介助方法、言葉使い、表情、態度等が虐待にあたらないか、検討、改善意識し、取り組めるよう虐待に繋がらない様、スタッフ間でフォローしあえる関係性を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	学習委員会を中心に勉強会を行い、外部研修でも学び、職員間で共有できる様努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	説明を繰り返し行い、家族や入居者が納得して頂けるまで説明を繰り返し行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設置したり、家族面会時は積極的に声掛けを行い情報共有している。入居者との会話も大切に、発せられた言葉の中から日々のケアに繋がる様努めている。	利用者に寄り添い、日常の会話やリラックスしている時などに話かけたりして意見等を聞いている。家族からも面会の時に報告をして希望や意見などを聞き、記録している。家族からの電話も多い。「様子を教えて欲しい」とか「おはぎの差し入れをしたい」等の要望があり、運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月1回スタッフ会議を開催している。会議には、事務局も出席してもらい、必要時は産業カウンセラーとの面談も行っている。</p>	<p>毎月のスタッフ会議で、職員からの意見や提案が多く出ている。スタッフの精神的な悩みなど産業カウンセラーを外部から呼んでいる。日頃から職員とはコミュニケーションをとっており、代表や管理者に相談や意見を言いやすい環境にあり、意見は日常の業務に取り入れている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働条件作りに努めている。また、定期的に施設を訪問し、職場環境を直接見て把握している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月法人内勉強会があり、殆どのスタッフは参加できている。外部研修も積極的に参加している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>月1回の向上委員会に出席し質の向上に向け、意見交換を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の聞き取り、面談を家族や本人、他関係スタッフより行っている。ホームでの生活の流れや、対応出来る事を詳しく説明している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の聞き取りや面談をしっかりと行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	協力機関や入居前の医療機関、施設等と連携をとり、入居者の日常生活が入居後も継続出来るよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者本意に考え、これまでの生活習慣を出来る限り変えず、出来る事、得意な事をさりげなく自然な形で取り組んで頂ける様声掛け、場面作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日頃の様子を報告したり、電話を取り次ぐ等の支援を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話での取り次ぎを支援したり、居室内は自宅の様に、これまでの馴染みの物を持ってきて頂き、またその方の馴染の美容室の方に来館してもらう等の支援を行っている。	馴染みの知人・友人と窓越しの面会をしたり、電話で話すことも多い。はがきや手紙がきたり、利用者が葉書を出す支援をしている。馴染みの店に職員が買い物を代行したり、美容師が訪問する等、関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士、居室やフロアでの座席に配慮し、日々の生活の中でなげない会話や活動が充実出来る様工夫している。必要に応じスタッフが介入している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、家族や入居者の相談が出来る様な関係作りに努めている。また、協力機関との情報共有や連携を図る様努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その方の生活歴、家族構成等を把握し、その情報を会話のきっかけとしたり、日々の言動等から一人一人の思い、ここでの暮らし方や希望、意向の把握に努めている。	生活の中で思いや暮らしの希望を聞けるような環境作りをしている。表質の困難な場合は言動や表情・仕草から把握に努めている。体調が悪いことやどこかに出かけたいこと等の希望があり、本人中心の支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の本人、家族、または担当ケアマネージャー等から情報収集し、また、新しく知り得た情報も追加し、スタッフ間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況を把握し、観察、記録に残し、カンファレンス等行いスタッフ間で情報共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のスタッフ会議で入居者一人一人の状況や情報共有を行い本人にあった計画の見直し、作成を行っている。	本人や家族の意向を確認し、日常の記録や主治医の意見を参考に、担当者会議で介護計画を作成している。モニタリングで経過について評価し、毎月の職員会議でケースカンファレンスし、1ヶ月毎に見直しをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、本人の日々の暮らしの様子を記録し、いつでもスタッフが確認でき、ケアに活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主治医、医療連携看護師との連携によって、24時間緊急時の対応が出来る様にしている。また、地域の歯科、理容室の協力により、希望時に対応できる様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域公民館、市役所、学校、地域ボランティア等、関係機関に働きかけている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	守屋病院をかかりつけ医とし、24時間体制で医療連携が図れている。他科については、家族の協力を得ている。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診である。週1回の看護師の訪問があり、日常の身体状況の変化や食事・排泄等を報告を行い、主治医との連携につなげている。24時間医療連携体制も整っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>常に入居者の健康管理や状態変化に応じた支援が行える様、毎日医療連携看護師へ1日の状況報告、週1回の訪問時に状況報告を行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>医師と話をする機会を持ち、対応可能な段階で、なるべく早く退院できる様連携を図っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に看とりケアは行っていない事を家族へ説明している。重度化した場合においては、ホームで提供できる範囲を見極めながら、本人、家族、連携医療機関と協力し、支援を行っていけるよう取り組んでいる。</p>	<p>重度化や終末期に向けた指針があり、入居時に説明している。早い段階から家族は主治医と細かく連携をとり合っている。重度化した場合は、ホームで最大限の支援を行うが、特別養護老人ホームや医療機関へ転移する場合もある。家族の意向を聞いて連携を取りながら取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>主治医といつでも連絡がとれる体制を整え、緊急連絡網を作成している。また、AED、救急蘇生について学んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>2ヶ月に一度防災自主訓練を行っている。また、避難経路を掲示し、緊急連絡網に近隣住民、自治会長、民生員の協力を得て連絡先を記載し、備蓄品は守屋病院にもある。</p>	<p>年2回避難訓練を実施し、年1回は消防署立ち合いで行い、防災自主訓練は2ヶ月毎にしている。避難場所の確認や通報訓練を行っている。緊急連絡網は自治会長や住民の登録がある。備蓄は米や水・スープ・缶詰・レトルト食品・インスタント飯・カレー等を用意している。3～4日分位の備蓄がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会を行い、不適切な声掛け等スタッフ間で注意しあっている。プライバシーを損なわないよう排泄時他者の前で問わない対応や入室時は必ずドアをロックしている。	個々の人格を尊重し、プライバシーを損ねないように、勉強会を実施している。日常の声かけは馴れ合いにならないように互いに注意しあっている。居室は了解を得て入室している。排泄は同性介助、報告は名前を出さないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	得た情報や日々の状態から本人の思いをくみ取り話やすい雰囲気作りや本人が選択出来るような声掛けを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の日程に沿って支援を行うが、本人の意思を確認し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	毎朝ホットタオル等で洗顔や髪を整える等の支援を行い季節に応じた好みの服等も家族に持ってきて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には一緒に準備や片付けを行い、季節に応じた献立や管理栄養士訪問時に嗜好調査をして頂いたり、入居者に合わせた食事形態等毎回話をしている。	行事毎に食事が楽しめるよう庭の桜を見て、弁当を食べたり、ひな祭りはちらし寿司、おせち料理、誕生日のケーキ等、季節が分かるメニューを提供し食事が楽しめるように工夫している。刻み食・とろみ食・形態にも気配りしている。もやしの根切りや味見・下膳・茶碗洗い等、職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作った献立に沿って食事を作っている。食事量や水分量は毎日記録をし、スタッフが確認、情報共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、その方の状況に嚥時手介助している。歯ブラシ、コップ等は毎週消毒を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居時1週間程度排泄パターンを把握し、可能な限りオムツを外し、トイレ誘導を行っている。その方の排尿量も確認し、パットの種類等その都度スタッフと検討している。	排泄の自立支援について、新規の利用者は特に排泄の観察を細かく行い、早く環境に慣れるようにトイレ誘導し、自立に向けた排泄の支援を行っている。おむつ使用者も2人介助で昼間はトイレ誘導している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その方の排泄パターンと水分量をしっかり把握し、水分摂取量の少ない方へは好みの飲み物を提供したり、乳製品や、また、ホットタオルや腹部マッサージ、散歩等を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一人一人の希望やタイミングに合わせて入浴が楽しめる様支援している。例えば、前日入浴され、今日も入りたい希望が聞かれたら入浴して頂いている。	入浴は体調に気配りしながら週2回以上、午前中に支援している。希望があればその都度対応している。入浴を拒む時は介助者を変えたり、時間をずらしたり、タイミングをみて支援している。足浴・清拭・機械浴にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冬場は湯たんぽや電気あんかを活用する等季節に応じた対応や電気の調節等一人一人に合わせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をもとに、目的や副作用等を理解し、変化があれば、医療連携看護師、主治医へ報告を行っている。また、毎日投薬チェック表を使用し確実に服薬確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>本人の出来る事、やりたい事の把握をし、料理の手伝いや、洗濯物干し、たたみ、入居前にしていた趣味等を入居後も継続出来る様支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>本人の希望に沿って散歩や、週1～3回病院リハビリへ参加し、外出の機会を設けている。</p>	<p>日常的には近隣を散歩したり、医療機関へリハビリに行く途中に車の中から花や景色をみて季節を感じたり、馴染みの場所に行っている。年間計画を作成しているがコロナ感染防止の為、自粛している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族よりお金を預かりホームで管理している。入居者へお金がある事を伝え欲しい物が購入出来たり、少額のお金を持って頂く事で安心されている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>公衆電話の設置、また携帯電話の持ち込みして頂いたり、希望時には家族へ電話の取り次ぎ等支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量や1日2回、温度、湿度確認、常時空調の調節を行っている。また、季節感を感じられる様に季節の花を飾ったり、壁面へ季節の物を飾る等工夫している。	フロアの大きな窓から外観が見渡せ、四季折々の季節が感じられる。換気・室温・湿度に気配りし空気清浄機や濡れたタオルなどで対応している。ひな人形や桜の花を折り紙で作り、壁に飾り季節を感じている。テレビの音量や採光を調節している。ソファがあり、ゆっくりと居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを置いたり、デッキにテーブルや椅子を置き、好きな場所で寛げるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時馴染みの物を持ちこんで頂くようこれまでの生活が継続できる空間作りを心がけている。	居室にはエアコン・ベッド・タンスを設置し、テレビ・座椅子・仏壇・タンス・マッサージ機・衣装ケース等を持ち込み、自宅で使い慣れた小物もそばに置いて、ゆっくりくつろげる部屋になっている。居室の整理や衣替え等、職員と話し合いながら行い、居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に本人が分かる目印を付けたり、ベッドは木製だが、必要に応じてギャッジベッドも使用している。安全に移動できる様常に環境整備を行っている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない